倉沢里山を愛する会 会報

ENJOY アリスの丘 風の丘 Farm
NEWS LETTER

倉沢里山を愛する会 会報
アリスの丘ファーム
NEWS LETTER No.26.
2004年5月1日発行

会　　長　峰岸純夫
代表幹事　川崎　明
事 務 局　田村裕介
東京都日野市百草698-6
TEL/FAX（042）592-5859
Email: alice-fm@mail.hinocatv.ne.jp
http://www.hinocatv.ne.jp/~alice-fm

日野市と倉沢里山を愛する会の「パートナーシップ協定」の締結に寄せて

会長　峰岸　純夫

年度最後の３月３１日、職員の異動などであわただしい市役所の会議室で、正式には「倉沢里山の緑地管理・運営及び供用に関する日野市と倉沢里山を愛する会のパートナーシップ協定」という長いタイトルの協定の調印式が行われた。市担当者との間で数回にわたる協議の末に成案を得てこの調印の運びとなったもので、当日は私たちの会と、NPO法人やまぼうし、石坂ファームの３者のそれぞれが、ほぼ同内容（管理区域は異なる）の協定を結ぶというものであった。この３者と馬場市長以下関係した旧・新の市職員が臨席して調印式が行われた。

故石坂義次・キク子夫妻の相続問題に端を発し、一部の山林などを公有地化することでその保全がはかられ、相続人の一人である田村はる子さんとその夫の田村裕介さんを中心に「倉沢里山を愛する会」が発足してボランティア活動が始まり、それによって今回の大きな里山の保全と、市民が継続的に緑地管理に協力するという画期的な仕組みに繋がったものである。

長い道のりの末にこの調印の日を迎えることが出来たわけだが、これによって市と会がパートナーとしてそれぞれの特性を生かして協力し合い、緑地の保全をして行くことが公的に確認されたのである。

私たちの管理する範囲は、倉沢第１緑地，同第２緑地、アリスの丘ファーム、万蔵院台緑地、倉沢北緑地（東電学園南斜面）の石坂ファーム管理地の西・東などである。この地域で緑地の保全管理作業を行うと同時に、市民に人と自然の共生の問題を認識する環境学習の場を提供することも目的のひとつである。行政と市民団体によるこのような協定は全国初の事例であるといわれ、私たちの責任も大きいが、みんなで力を合わせて肩ひじ張らずに楽しみながらやっていきたいと思う。

当日挨拶に立った私は、ここに至る多くの関係者の努力に感謝し、協定締結三者相互と市との一層の協力関係の進展を述べるとともに、このパートナーシップ協定というネイミングが気に入っているので、わが家でも夫妻のパートナーシップ協定を結んで今後に備えたいと発言したら参会者はどっと笑った。

里山の植物誌（25）

ツリバナ（ニシキギ科）

散策会を準備した頃、第１緑地で近くに生えているニシキギとはどうも似て非なるものにちがいない、コマユミかもしれない、これから手入れをする中で観察していけばはっきりするだろうと思い注目していました。ところが自然は急速にこの木も成長させていました。立て札を片付けに行った時、葉は大きく開き、対生する葉の付け根から集散花序が出ており、昨年の同じ頃三沢八幡で見たツリバナと同じでした。漢字では吊花と書きます。

同科のマユミ類とは花の柄の長さによって分けられたように、花序の柄は長く垂れ下がっています。花の色彩は余り目立ちませんが、長く細い柄の先に咲くそのさまを「可愛い花のサーカス」と感じながら撮影した人がいて、私はぴったりだと思います。庭木としても愛好者が多いのは、秋季になり朱赤色の仮種皮のある蒴果の釣り下がる風情も愛するからでしょう。

この辺りの２次林まで広く分布しているこの木は、林縁に出たがる傾向があるので、低木ながら目につく機会が多いともいえます。深山にはオオツリバナ・ヒロハツリバナなどもあり、それぞれ個性的です。

峰岸立枝

「里山耕房くらさわ」を市民協働の場に

ＮＰＯ法人やまぼうし 理事長　伊藤　勲

倉沢の里山保全に関する日野市とのパートナーシップ協定の締結を受けて、本年４月１日、やまぼうしの３つ目の障害者作業所として『里山耕房くらさわ』がオープンしました。

何年も前から倉沢里山を愛する会の皆さんが愛情こめて維持されてこられた「風の丘ファーム」をやまぼうしで使用させていただけることになり、今回さらに田村さんご夫妻のご理解・協力をいただき新しい作業所の開設にこぎつけることが出来ました。

昨年秋のどんとこい収穫祭（第１緑地で）

『里山耕房くらさわ』を私達は、「自然と人との共生」という法人設立の基本目標を実現していく上での、新たな活動拠点として開所しました。

やまぼうしは、すでに障害者作業所として百草園駅の近くの自然食品販売のお店『ワークショップおちかわ屋』と万願寺の多世代交流の軽食喫茶のお店『交流サロンべらもんと』を運営しています。

『里山耕房くらさわ』は、「風の丘農園」での有機野菜の栽培や「豊田農園」でのハーブ栽培を中心に、「トトロの畑」や「鈴木牧場」への援農、日野市内の竹林の里親、竹炭づくりや竹工芸等多彩な活動プログラムに取り組んでいます。やまぼうしは、障害者の「農あるまちづくり」への参加事業を推進していますが、従来の障害者作業所から多くの市民の方が参加できる『市民協働型事業所』への脱皮を目指しています。

今後、倉沢里山を愛する会の皆さんのご指導を受けながら、サポーターの皆さんともども里山保全の活動にも参加させて頂けることを期待しています。イベントの共催などもそのうち企画できるといいですね。愛する会の皆様、よろしくお願いいたします。

まちを耕す！自然と人との共生！ 地域生活支援のネットワークづくりをめざす「やまぼうし」はこんなＮＰＯ

1．ながい、なが～い前史

1982年以降、障害者の「地域で共に生きる」権利を保障していくためには、障害当事者はもとより施設職員も街に出ていくことが不可欠であると考え、地域での働く場＝自立支援の場づくりを担ってきました。そして「まちづくり」への積極的な参画をすすめ八王子市・日野市を中心に、まちづくりマスタープランや地域福祉計画の策定と施策の実現に向けた様々な取り組みを積み上げてきました。

ＮＰＯ法人やまぼうしの事業は、そうした過去20年にわたる活動の蓄積の上に展開されています。

2．やまぼうしは何をしようとしているの？

やまぼうしの事業は、４つの事業部門で構成されています。

①総合生活支援事業部門（総合相談、ケア付下宿の運営、生活寮支援）
②通所授産事業部門（ワークショップおちかわ屋・交流サロンべらもんと）
③生活寮事業部門（重度知的障害者生活寮みお・わんど、生活寮もぐさ）
④環境保全等事業部門（農あるまちづくり障害者参加事業、豊田・風の丘農園）

やまぼうしは、多くの会員が自らパーソナルアシスタントを基本にしたサポーター登録をすすめています。そうしたサポーターに支えられ「援助する・される」の関係性を超えた「ともに生きる」場と市の境を超える「淺川流域のまちづくり」を市民パワーの結集で推進したいと考えています。

3．農あるまちづくりへの障害者等参加試行事業
～「日野いいプラン2010」市民行動計画としての活動へ～

プロジェクトとしては、①体験市民農園等の開設による遊休農地の積極活用②地場野菜の活用等の農産物の加工③里山保全事業④冒険広場を主要な柱としています。すでに、市の紹介で遊休農地が確保され、資源ごみの堆肥化や有機農法による農作業が具体化しています。

4．これからのお楽しみ ～市民主導のまちづくり～

NPO法人やまぼうしは、20年間にわたる障害者施設の改革運動と地域の自然環境保護運動が、日野や八王子のまちづくりを舞台に共有化しようとする取り組みから誕生し、事業展開されています。

私たちは「市民自治型福祉社会」の確立に向けて、具体的にどのようなアクションを組立てていけるのかの模索をはじめたばかりです。

2004年度からは、「やまぼうしサポートセンター」の居宅介護事業所の開設をはじめ、環境保全活動の本格開始、障害者と高齢者の「協働と共生」の場づくり等を順次具体化していくことを企画しています。

お花見会

緑地管理の新しい課題

事務局　田村　裕介

パートナーシップ協定が結ばれ、私たちの会の役割も新しい局面を迎えたといえます。

会の発足から今までは、やはりなんと言っても「どうしたら緑地を残すことができるか」ということが主題でした。私たちの活動への評価が公有化への重要な前提になったわけで、特筆されるべき成果だと考えています。それに対してこれからは「緑地を適切に維持しながら、どのような形ならば市民にその恩恵を享受してもらえるか」ということがテーマです。

従来のいわゆる「里山」は、個人の私有地で一度に大勢の人が入ることもなかったし、従って踏み荒らされる心配もありませんでしたが、これからの里山の維持管理や運営の方法は以前と同様と言うわけには行きません。人の立ち入りをシャットアウトすれば昔のままの姿を残せるというわけでもありませんし、せっかく市民の共有財産として保全した緑地ですから、良好な状態に維持していくと同時に、何らかの形で市民がそれを楽しむことができることも、やはり重要です。

しかし緑地と公園とはあくまでも別のもので、誰でもが自由に入ってよいということでもありません。他の多くの公有緑地でも問題になっていますが、市の所有だから市民には自由に入る権利があるというような勘違いも起こりがちです。節度を守って緑地を傷めないように散策したり植物を観察して歩くことまで規制したくはありませんが、中にはどこでもかまわず踏み荒らしたり、ひどい場合は貴重な植物を採っていってしまう例さえ見られます。他地域の同様の里山公園的なところでも、「一般に公開した後は盗掘との戦いです」という悲しい話も耳にします。

本会の２・３月の活動では、緑地を良好な状態に維持しながら、近隣にも迷惑をかけないようにし、しかも市民が緑の恩恵を得られるための環境整備作業を特に意識してやってきました。

ひとつは緑地に隣接する畑との境がはっきりせず、知らずに畑に入ってしまうことも考えられたため、その境界に杭を打って目印にする作業（写真上）。また貴重な植物を保護するため、人が歩いても良い経路を限定する杭打ち作業（写真下）。下草刈りや落ち葉掃きの際手刈りで慎重に植物を守りながら作業することが必要な区域の明示。そして林と畑の循環の実践という本会の理念を具体化するための堆肥床作り等です。　今回新たに発足した植物調査・保全チームのみなさんにも、まずこうしたことを最優先の課題として検討・作業して頂いています。

本会の活動には、このところコンスタントに約６０名ほどのボランティアが参加されています。こんなに大盛会のボランティア活動は少ないと思いますし、活動を始めた頃の人数から思えば、こんなに沢山の方が協力してくれることには本当に感謝・感謝ですが、一方で、いちどきにあまり大勢が入ると「ふかふかの林床が踏み固められるのでは」など、新しい心配も出てきています。こうしたジレンマをどのようにしたら解決できるか、これからしばらくは試行錯誤を繰り返しながら研究していかなければなりません。皆様のさらなるご協力と、お知恵も貸して頂ければと思います。

保護作業を通して、里山の植物を楽しみませんか

植物調査・保全チーム発足!!

佐瀬千佳子

里山内の稀少な動植物を保護育成することは、倉沢里山を愛する会の大切な活動目標の一つです。

この急を要する目標を実現するために、このたび主に植物分野の活動チームを発足することになりました。

稀少または貴重な動植物の保護育成、そして里山の自然環境の保全と再生をすすめるためには、さまざまな生態学的な調査研究活動が欠かせません。里山の歴史的成り立ちについても学ぶ必要があるでしょう。また、小さな草花の育成条件を整えるために、雑木林の下草刈りなどの作業活動にもとりくみます。

当面の目標は、

１. 植生調査　　２. 希少植物自生地の保護

です。

植物のほとんどは、１年に１度しか花咲かず、雑木林の萌芽更新は２０年に1度といわれます。息の長い仕事になります。３年から５年、いや１０から２０年先の再生された里山の姿を思い描きながら、ゆったりとした時間を共有してみませんか。

倉沢の植物について、もっと知り、考え、情報の交流を図りながら、楽しく活動を続けたいと思います。

植物について、専門性をお持ちの方は言うに及ばず、まるで知らないという方でも、興味と関心と熱意がある方ならどなたでもご参加いただけます。

●定例会　　毎月第１日曜日

午前９時半から１２時まで　　第２緑地集合

※ただし５月の定例会は８日（土）とします

●当面の作業日

毎週木曜日１２時から　　第２緑地集合

●連絡先

佐瀬（c@sase. jp）、

事務局（田村）まで

発起人（順不同）

佐瀬千佳子　築地勝代

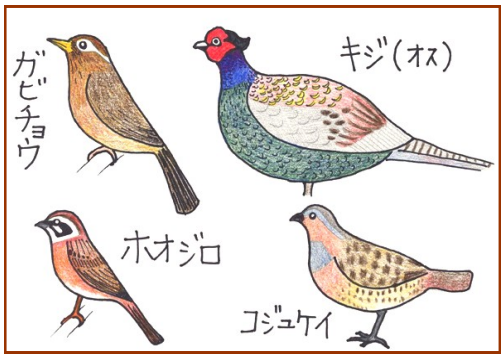
田村はる子　松崎孝子

峰岸立枝

調査計画の検討をする発起人のみなさん

里山に棲む鳥たち　（第５回）

横浜国大大学院環境情報学府博士課程　藤田素子



爽やかな風と新緑が心地よい季節に、複雑で口笛のような美しい鳥の声が響きわたることがあります。ガビチョウと呼ばれるこの鳥は、鳴き声の美しさを求めて中国などから輸入し、飼育していたものが野生化したのだそうです。このように国外から定着した生物を移入種といい、元からいた生物（在来種）への影響が心配されています。新しい場所に侵入すると競争相手や天敵がおらず、爆発的に増殖し、元々いた種を絶滅させてしまうこともあります。島のように固有の生態系を作っている場合は、なおさら侵入に対して弱いようです。ガビチョウはどうなのでしょうか。

ガビチョウは笹藪などに棲み、姿が見づらいですが、ツグミくらいの大きさで目の縁取りが真っ白な絵の具を塗ったようで特徴的です。初めてこの声を聞くと、あまりの美しさに感動しますが、住宅地に近いところでも平気でさえずるので、そろそろ公害（騒音）になるかもしれません。

同様に笹藪でチョトコイ、チョトコイと大きな声で鳴く鳥はご存知でしょうか？コジュケイというキジやウズラの仲間ですが、狩猟鳥として中国から移入したのだそうです。ハトくらいで、地上のものを落ち葉をひっくり返しながら食べますが、子育て中はこどもをたくさん連れて、遠足のような賑やかさです。警戒心が強いはずですが、餌に夢中でこちらに気づかず、慌ててワラワラと去っていく様子は可愛くてたまりません。

キジという鳥も実は狩猟鳥ですが、日本の国鳥でもあり、元からいた鳥だと言われています。繁殖期にはオスはケーン、ケーンと鋭く二声鳴いて翼をバタバタさせて音を出します。見通しの良い草地、葦原などにいます。人間がかなり近づくまで気づかないのか、突然飛び立つものすごい音には、こちらもびっくりします。倉沢でも１０数年前には姿も容易に見られましたし、夕方など鳴き声も聞く事ができたそうですが、最近は出会うことはありません。

同じ様な場所にはホオジロもいます。木のてっぺんに止まって、「一筆啓上つかまつり候」などと鳴きますが、その聞きなし通りに聞こえることはまずありません。なにせかなりバリエーションに富んださえずりをします。高い声で２～３秒、を何度も繰り返します。姿はスズメに似ていますが尾が長く、お腹の赤茶色が目立ち、顔は白銀と黒のストライプと、上品です。森の奥よりも疎林、草むらのような明るいところを好みます。

春の倉沢里山散策会

田村はる子

春の里山散策会はこの会が普段手入れをしているところを、ゆっくりと植物や歴史の解説を聞きながら歩きたいということで企画されました。４月１７日は天気は快晴、参加人数は７０名で、用意した配布資料が不足するほどでした。ここ倉沢は植生が思いのほか豊かで日野市内でも希少植物が残る貴重な緑地です。皆足元の植物に気をつけながら1列になって見学をしなければならないところもありました。1箇所特別に入らせて頂いた石坂文雄さん宅の裏山は、私有地で普段は入れませんが、植生が素晴らしく感動の連続でした。会のために快く入山をお許し頂き、紙面を借りてお礼申し上げます。次のコースの北緑地の西側は以前は荒れ果てた竹林でしたが本会で整備した結果、気持ちのよい竹林に生まれ変わった場所です。ちょうど筍が少し出始めていて、皆様に是非味わって頂きたくメニューに筍の料理を加えました。

ささやかですが、こんなご褒美があるとちょっと嬉しい気持ちです。１０種類を超える野草のサクサク天ぷらや筍五目ご飯、蓬ご飯、その他絢爛豪華な季節の食卓に、皆大感激でした。

５・６月のイベント情報

参加される方は事務局までご連絡お願いします。

５月２２日（第４土）　**（雨天の時は翌日に順延）**

雑木林の下草刈り(1)と整備、希少植物の保護
お昼は熱々「けんちん汁」です。
集　合　１０時　第２緑地
持ち物　バンダナ、手袋、おわん、箸

☆作業に入る前の時間をさいて、昨年度の活動の総括、会計報告等をする予定です。ご参集下さい。

６月１９日（第３土）　**（雨天の時は翌日に順延）**

雑木林の下草刈り(2)と希少植物の保護
お昼は定番の「トン汁」です。
集　合　１０時　第２緑地
持ち物　バンダナ、手袋、おわん、箸

☆☆☆☆☆　事務局から　☆☆☆☆☆

☆本会の活動時の傷害・損害賠償保険は「ＮＰＯ活動総合保険」（あいおい損保）に加入しています。本年度からはパートナーシップ協定に基づき、日野市が保険契約を結んでくれることになりました。新しい契約内容について事務局で日野市に細部まで確認しておりましたが、昨年度までの条件と全く変わらない内容で保障されるということです。

ただし、会全体の公式活動外のアリスの丘ファームでの個別の事故等は保険の対象になりませんのでご留意ください。

☆本年度は日本財団から助成をいただけることになりました。

日本財団 The Nippon Foundation
ボランティア支援事業